

伊勢市公共下水道工事標準構造図集 (汚 水)

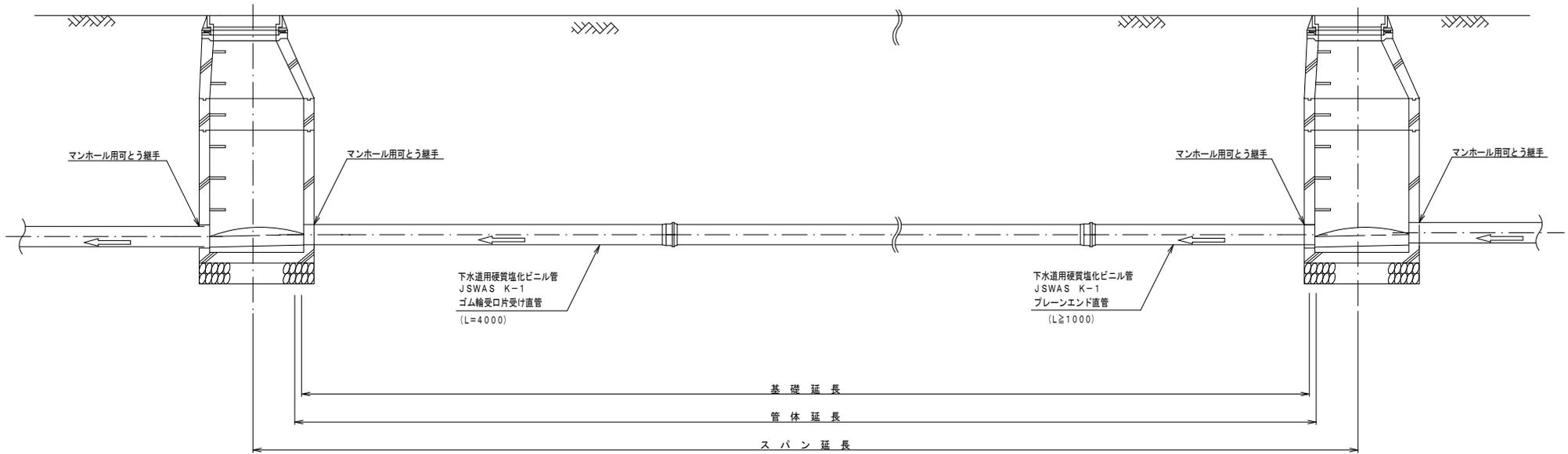
平成24年7月

伊勢市上下水道部下水道建設課

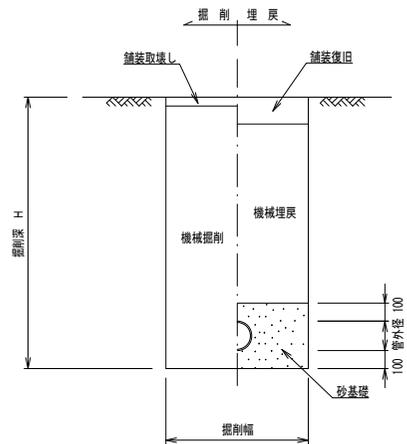
図面一覧表

図面番号	図面名称
1	管布設工標準図（下水道用硬質塩化ビニル管）
2	管布設工標準図（下水道用リブ付硬質塩化ビニル管）
3	管路土留工標準図（参考図）
4	組立1号・楕円マンホール標準構造図
5	組立2号マンホール標準構造図
6	小型マンホール（コンクリート製）標準構造図
7	小型マンホール（レジン製）標準構造図
8	小型マンホール（塩ビ製）標準構造図
9	組立0号マンホール標準構造図
10	インバート標準構造図
11	副管工構造図
12	取付管およびます工標準図
13	舗装復旧図（1）
14	舗装復旧図（2）

管布設工標準図（下水道用硬質塩化ビニル管）



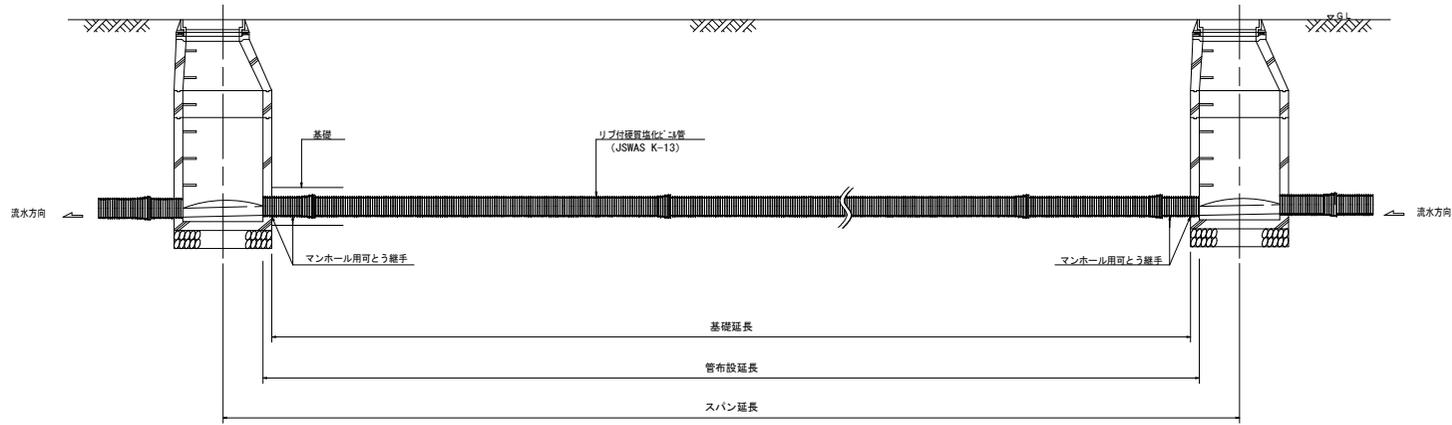
土工定規図



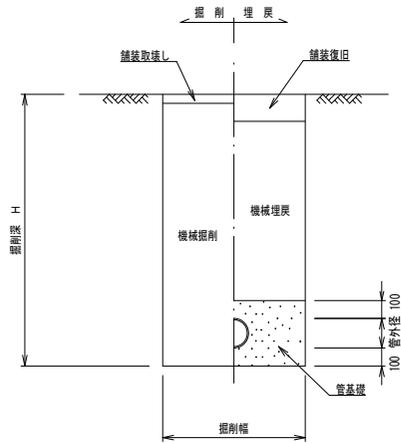
(参考値)

規格	管 材				掘 削 幅				備 考	
	寸 法 表				表掘	軽重鋼矢板 アルミ交差		簡易土留		
	呼び径	内径	管厚	管外径		H ≤ 1.5m	H > 1.5m	TYPE 1		TYPE 2
mm	D	t	D 1	B	B	B	B	B		
下水道用硬質塩化ビニル管 JSWAS K-1	150	154	5.1	165	750	850	900	1000		
„	200	202	6.5	216	800	900	950	1050		
„	250	250.2	7.8	267	850	950	1000	1100		

管布設工標準図（下水道用リブ付硬質塩化ビニル管）



土工定規図

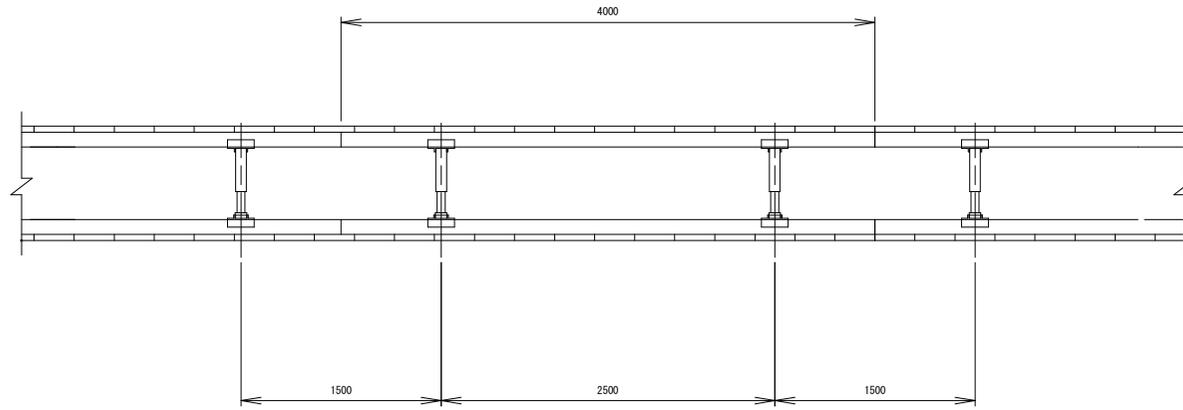


(参考値)

規格	管 材			掘 削 幅				備 考
	寸 法 表			素掘		簡易土留		
	呼び径	管厚	外径 (標準値)	H ≤ 1.5m	H > 1.5m	TYPE 1	TYPE 2	
m	m	m	m	m	m	m	m	
下水道用リブ付硬質塩化ビニル管 JSWAS K-13	150	150	2.4	155.5	750	850	900	1000
"	200	200	2.4	205.5	800	900	950	1050
"	250	250	2.7	256.1	850	950	1000	1100

管路土留工標準図 (参考図)

平面図



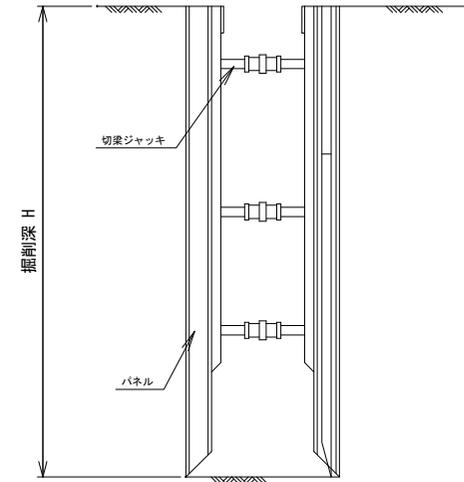
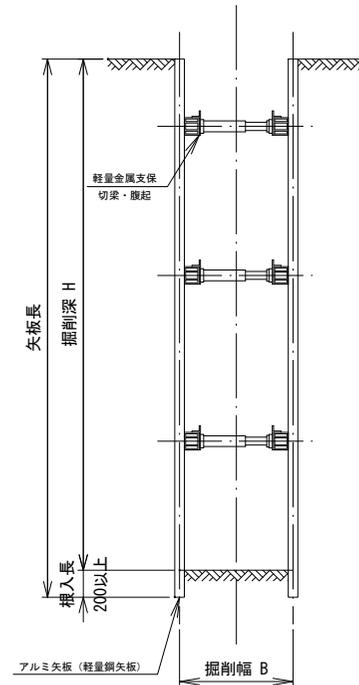
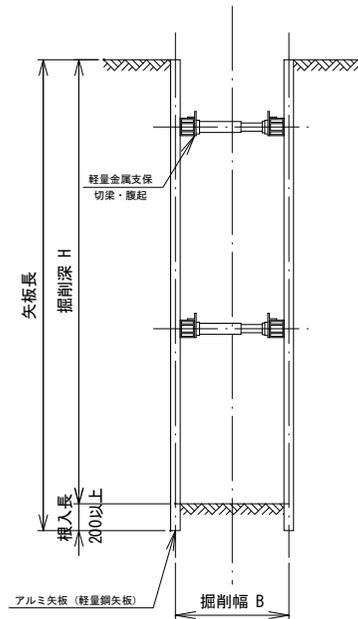
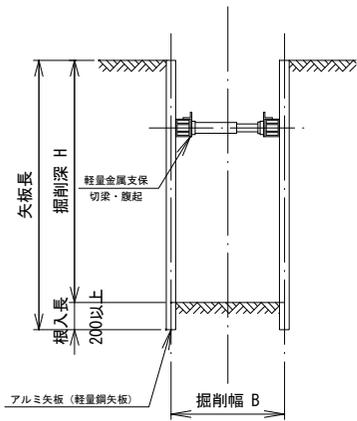
断面図

支保工 1 段
($H \leq 1.8m$)

支保工 2 段
($1.8m < H \leq 3.3m$)

支保工 3 段
($3.3m < H \leq 3.8m$)

簡易土留工



軽金属矢板・アルミ矢板標準矢板長

掘削深 (H)	矢板長
$H \leq 1.30$	1.50
$1.30 < H \leq 1.80$	2.00
$1.80 < H \leq 2.30$	2.50
$2.30 < H \leq 2.80$	3.00
$2.80 < H \leq 3.30$	3.50
$3.30 < H \leq 3.80$	4.00

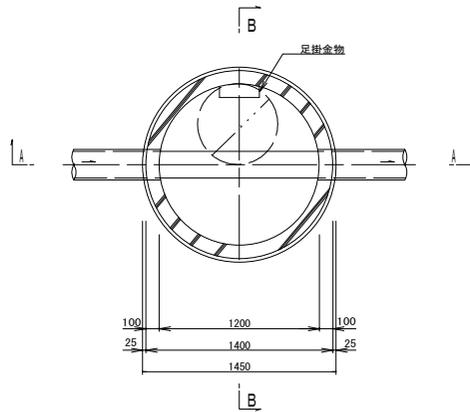
土留支保工 (軽金属支保工) 標準段数

掘削深 (H)	段数
$H \leq 2.00$	1 段
$2.00 < H \leq 3.50$	2 段
$3.50 < H < 4.00$	3 段

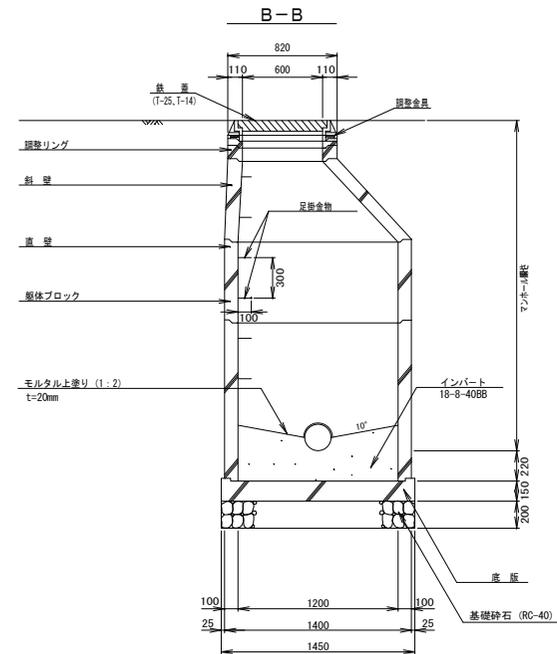
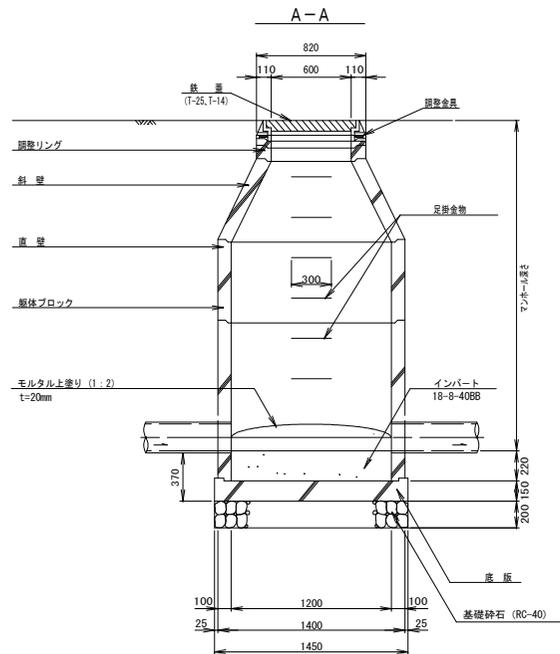
(注) ※掘削の深さが1.5mを超える場合は、必ず土留工を施すこと。
 ※掘削の深さが1.5m以下であっても、崩壊のおそれのある場合は、土留工を施すこと。
 ※矢板の挿入は、20cm以上とする。
 ※図示している標準図は、参考であり、構造、形状は請負者の責任において定めるものとする。

組立2号マンホール標準構造図

平面図



鉄蓋	H
調整金具	25
調整リング	45
	50
	100
	150
斜壁ブロック	300
	450
	600
直壁ブロック	600
	900
	1200
	1500
	1800
	2100
	2400
躯体ブロック	900
	1200
	1500
	1800
	2100
	2400
底板ブロック	130



※マンホール部材の組合せは指定しない。
ただし、調整リングは少なくとも1個使用すること。

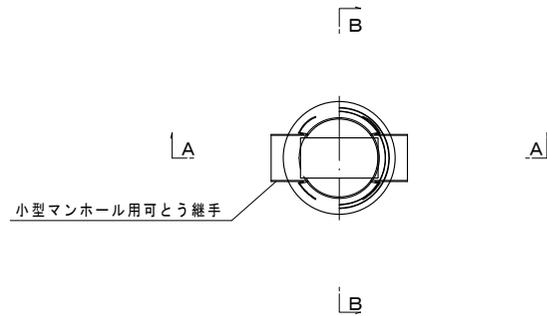
※マンホール蓋の表面柄については以下のとおりとする。

※マンホール深が5mを超える場合は中間スラブを設けること。

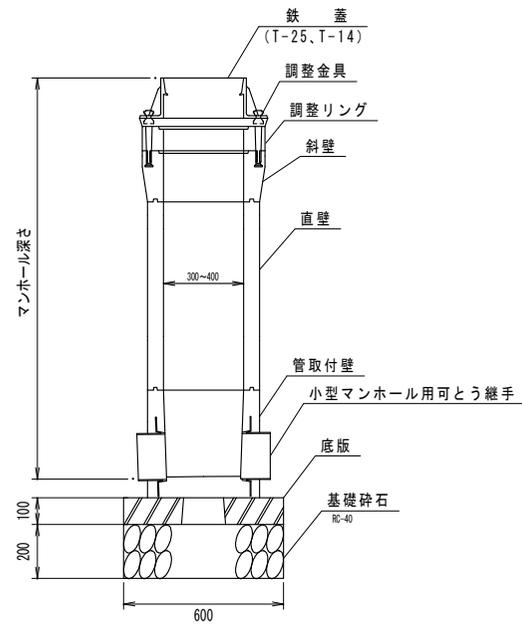
部 署	蓋の表面柄
旧伊勢市	オカゲマイリ
旧小俣町	桜
旧二見町	夫婦岩
旧御園村	(み)

小型マンホール（コンクリート製）標準構造図

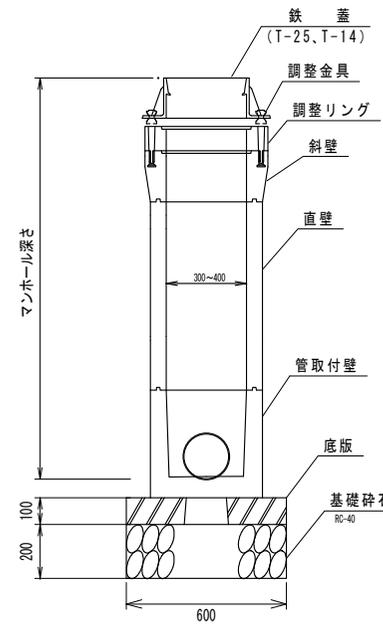
平面図



A-A



B-B

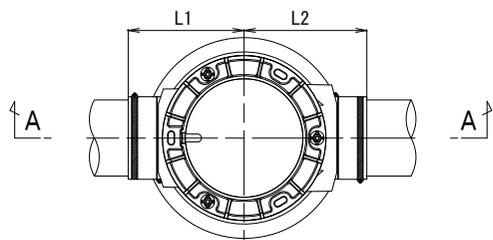


※マンホール部材の組合せは指定しない。
ただし、調整リングは少なくとも1個使用すること。
※マンホール蓋の表面柄については以下のとおりとするが、
市章入り標準模様も使用することができる。

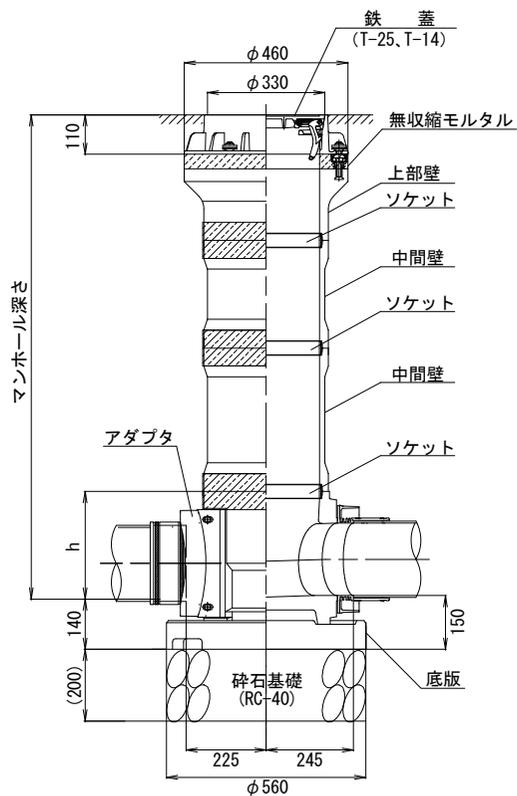
部 署	蓋の表面柄
旧伊勢市	オカゲマイリ
旧小俣町	桜
旧二見町	夫婦岩
旧御園村	(み)

小型マンホール（レジン製）標準構造図

平面図

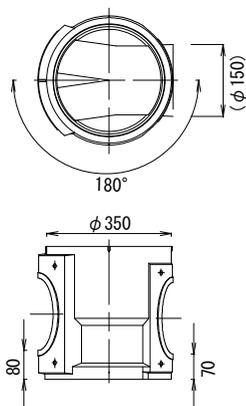


A - A 断面

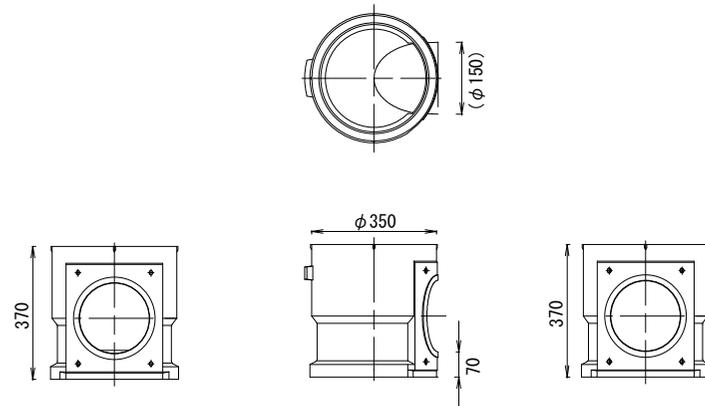


インバート

中間タイプ



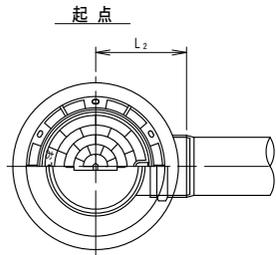
起点タイプ



二次製品材料表

名称	寸法	備考
調整リング	$\phi 300 \times 50$	
ソケット	$\phi 300 \times 38$	
中間壁	$\phi 300 \times 100$	
	$\phi 300 \times 200$	
	$\phi 300 \times 300$	
	$\phi 300 \times 400$	
	$\phi 300 \times 500$	
	$\phi 300 \times 600$	
	$\phi 300 \times 700$	
	$\phi 300 \times 800$	
落差用中間壁	$\phi 300 \times 350$	
底版ブロック	$\phi 560 \times 70$	

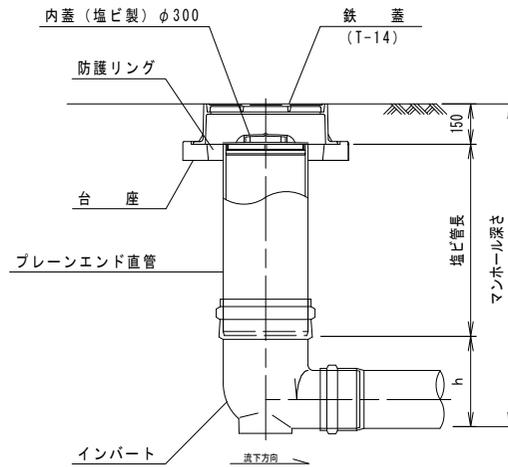
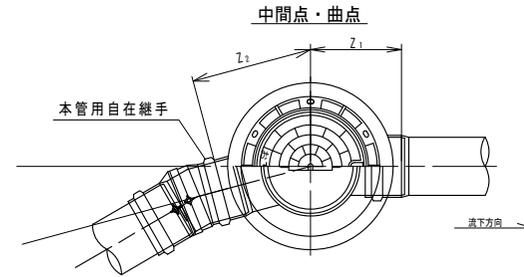
小型マンホール（塩ビ製）標準構造図



起点

管径	マンホール径	Z 1	h
150-300-KT	280	230	
200-300-KT	290	255	

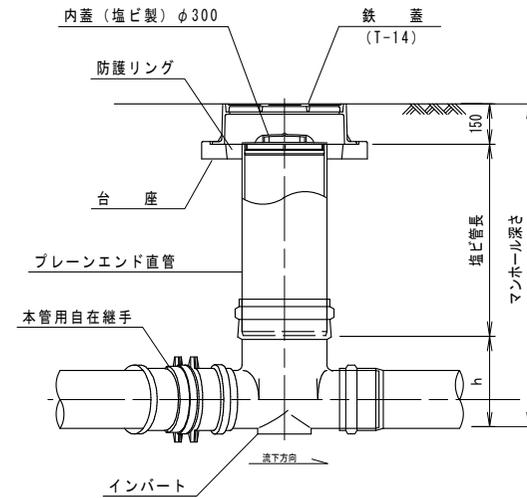
単位：mm



中間点・屈曲点

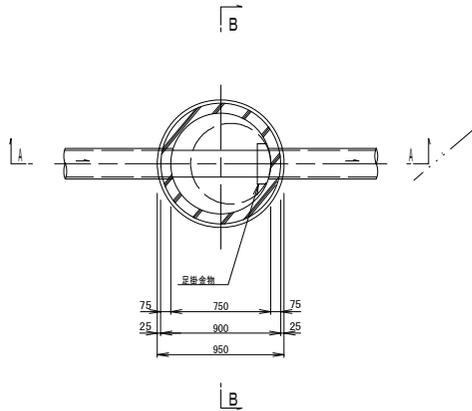
管径	マンホール径	曲り角	Z 1	Z 2	h
150-300-ST			280	180	230
150-300-15L		右・左	290	190	230
150-300-30L		右・左	290	190	230
150-300-45L		右・左	290	190	230
150-300-60L		右・左	290	190	230
150-300-75L		右・左	290	190	230
150-300-90L		右・左	290	190	230
200-300-ST			290	180	255
200-300-15L		右・左	290	200	255
200-300-30L		右・左	290	200	255
200-300-45L		右・左	290	200	255
200-300-60L		右・左	290	200	255
200-300-75L		右・左	290	200	255
200-300-90L		右・左	290	200	255

単位：mm



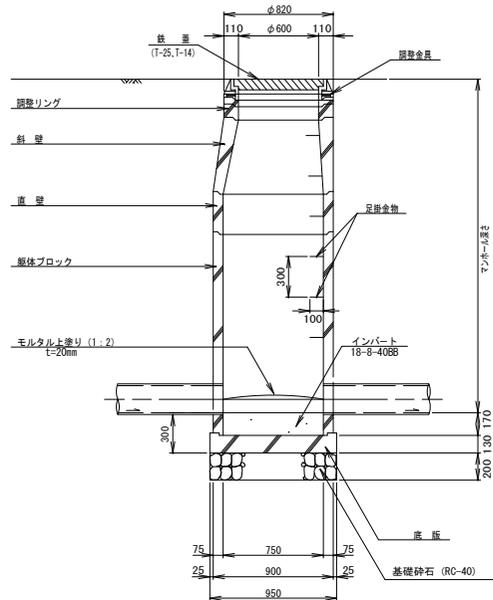
組立0号マンホール標準構造図

平面図

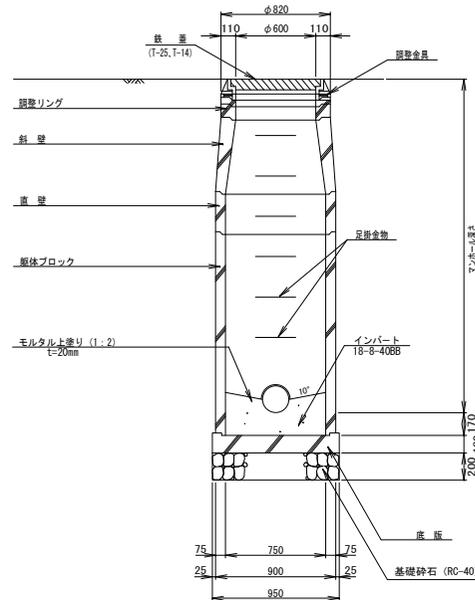


	H
鉄蓋	110
調整金具	25
	45
調整リング	50
	100
	150
	200
斜壁ブロック	450
	600
	300
直壁ブロック	600
	900
	1200
	1500
	1800
	600
縦体ブロック	900
	1200
	1500
	1800
底板ブロック	130

A-A



B-B

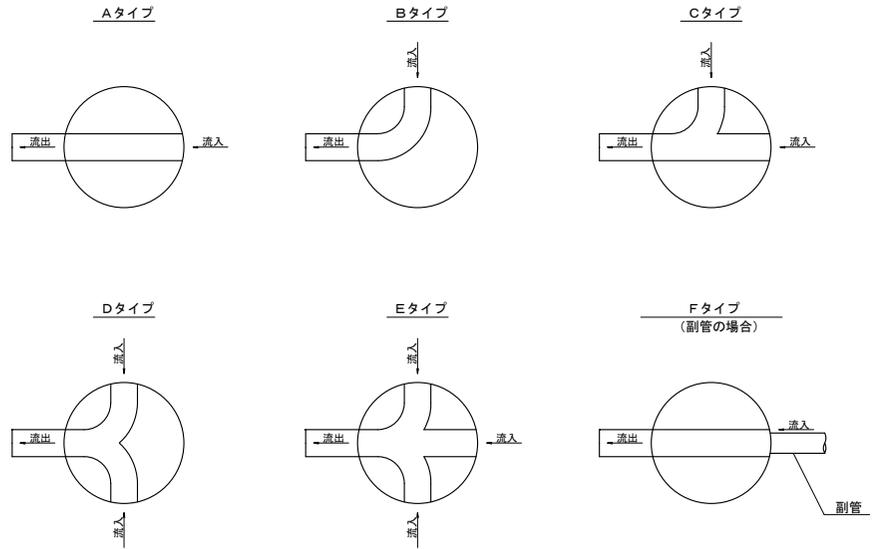


部署	蓋の表面柄
旧伊勢市	オカゲマイリ
旧小俣町	桜
旧二見町	夫婦岩
旧御園村	(み)

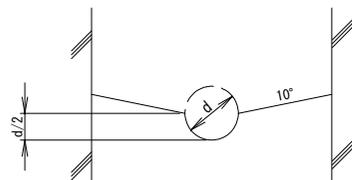
※マンホール部材の組合せは指定しない。
ただし、調整リングは少なくとも1個使用すること。
※マンホール蓋の表面柄については以下のとおりとする。

インバート標準構造図

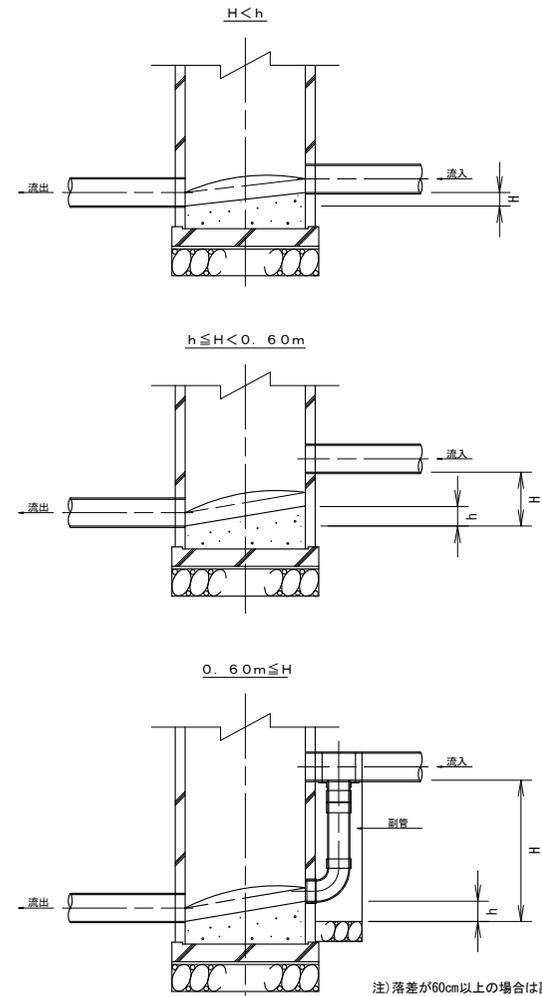
平面図



横断面図



縦断面図

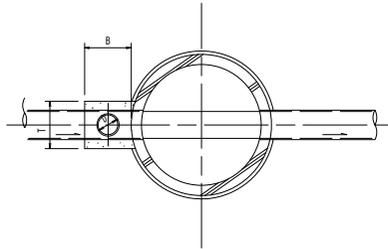


注) 落差が60cm以上の場合は副管を設置する。
hは流出管径の1/2とする。

副管工構造図

外副管工

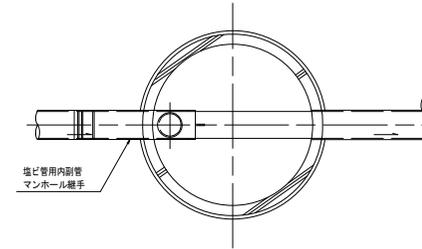
平面図



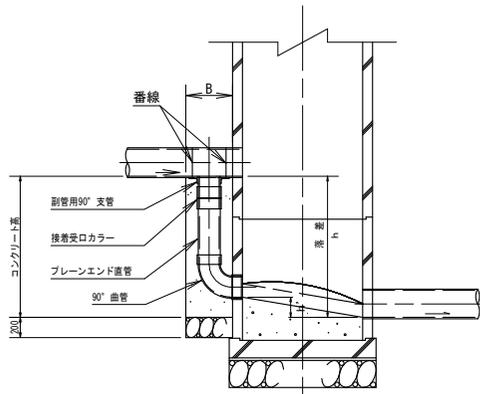
流入管	副管径	保護の対+幅 B	保護の対+長 L
150	100	300	300
200	150	350	350
250~400	200	400	400
450	250	450	450

内副管工

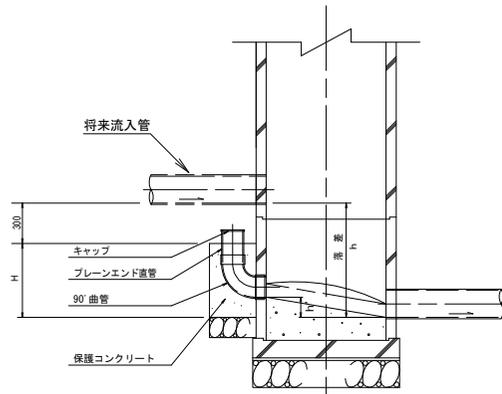
平面図



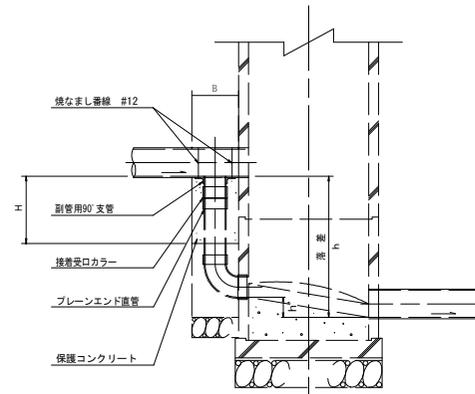
縦断面図 タイプA



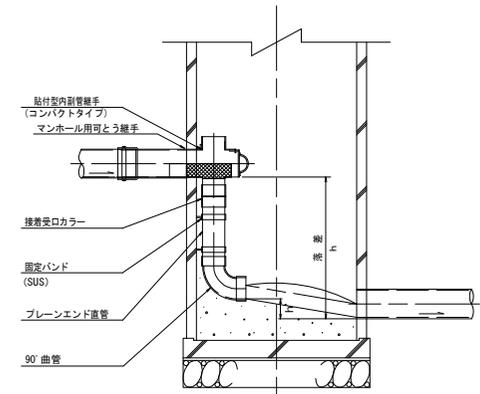
縦断面図 タイプB (暫定施工)



縦断面図 タイプC



縦断面図 タイプD



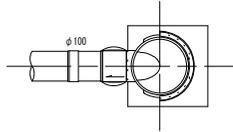
※h' は、流出管径の 1/2 とする。

取付管およびます工標準図

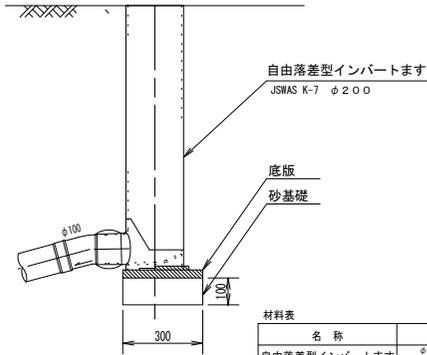
公共汚水ます標準図

標準タイプ

平面図

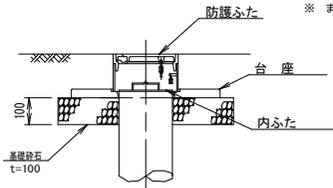


断面図



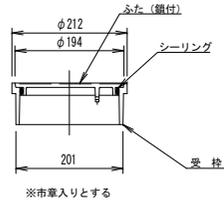
名称	規格	単位	数量
自由落差型インバートます	φ200 (個ど別) φ100 (取付)	個	1.0
ふた	φ200 塩化鉄 T-2 プレーン 遮音入り 鋼付	枚	1.0
砂基礎		m ³	0.01

铸铁製防護ふた (JSWAS G-3)



※ 傾斜地にますを設置する場合は、傾斜対応型の蓋を使用するものとする。
 ※ ますの立ち上がり部に継手を設けてはならない。

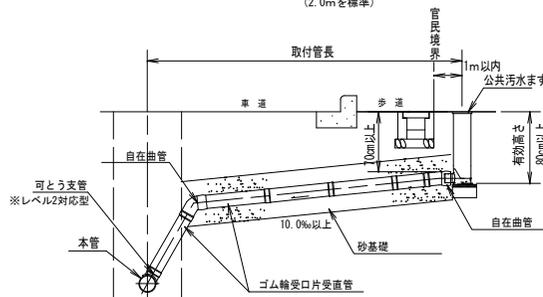
ふた (T-2) (ワンタッチ開閉閉式)



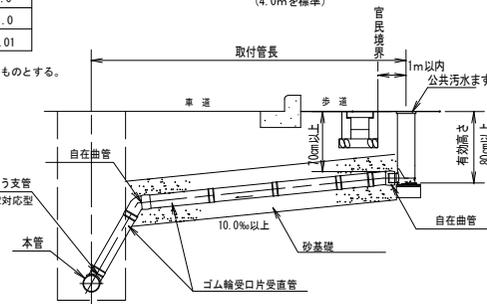
※市章入りとする

取付管標準図

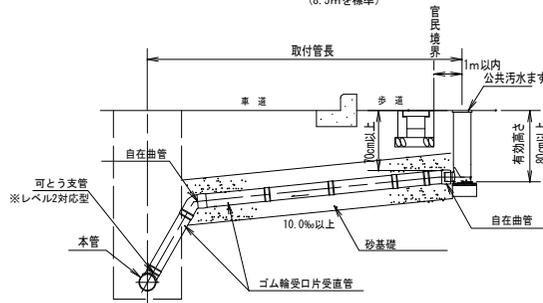
取付管長3.0m未満 (2.0mを標準)



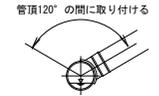
取付管長3.0~5.0m未満 (4.0mを標準)



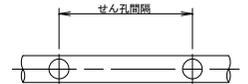
取付管長5.0~12.0m未満 (8.5mを標準)



支管取付位置



管のせん孔位置



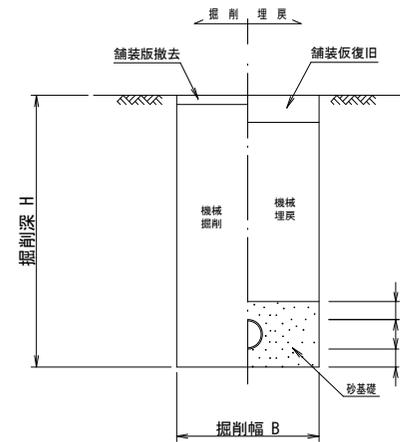
※L...支管φ150以下のとき70cm以上とする。

名称	規格	単位	数量
可とう支管	φ150-100 (VU)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	1.0
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	2.0
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
砂基礎		m ³	0.4

名称	規格	単位	数量
可とう支管	φ150-100 (VU)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	1.0
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	4.0
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
砂基礎		m ³	0.8

名称	規格	単位	数量
可とう支管	φ150-100 (VU)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	1.0
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
ゴム輪受口片受直管	V U φ100	m	8.5
自在曲管	φ100 (SRF)	個	1.0
砂基礎		m ³	1.8

土工定規図



※ 掘削深が1.5mを超えた場合には土工工を行うこと

宅内排水延長別汚水ます深一覧表

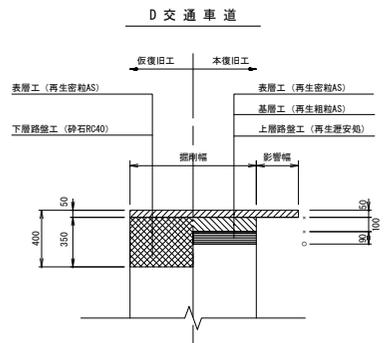
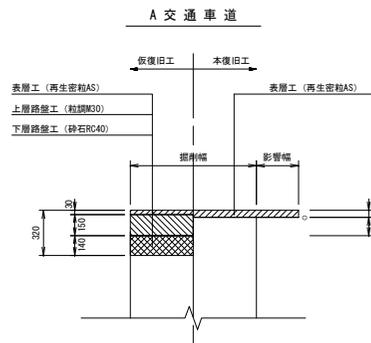
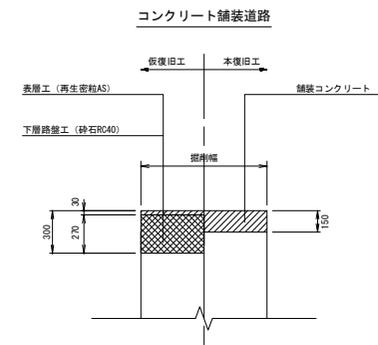
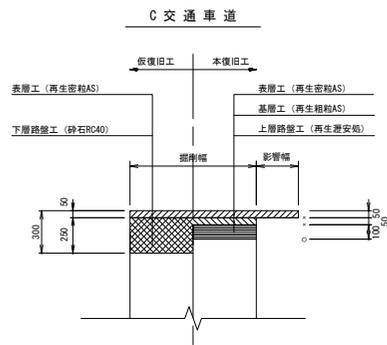
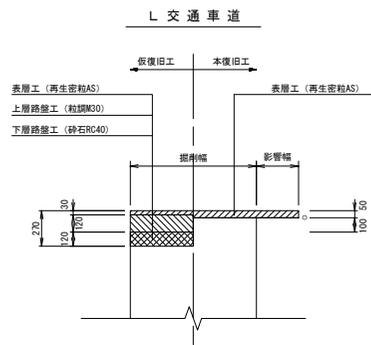
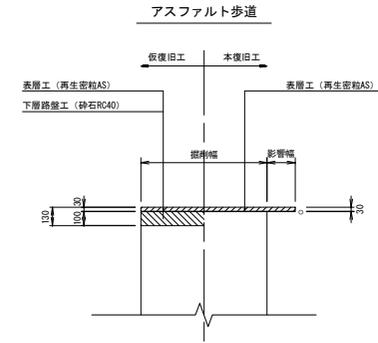
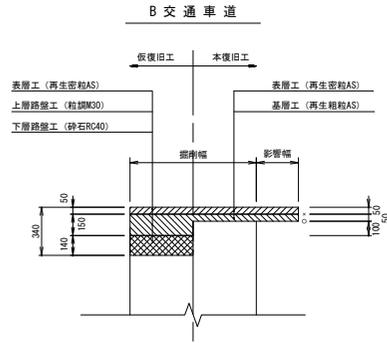
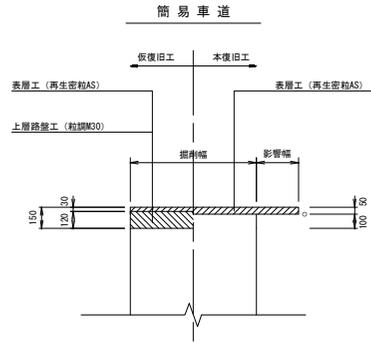
汚水ます深計算式
 汚水ます深 (m) = 排水設備延長 × 0.02 (管勾配) + 0.3 (起点ます深) + 0.05 (汚水ます落差) + 0.15 (排水設備落差)

排水設備延長 (m)	汚水ます深 (m)
0~15	0.85
16~20	0.95
21~25	1.05
26~30	1.15
31~35	1.25
36~40	1.35
41~45	1.45
46~50	1.55
51~55	1.65
56~60	1.75
61~65	1.85
66~70	1.95
71~75	2.05
76~	別途協議

注1. 道路面 (車道部) からの取付管の最小管土被は、0.70m以上とする。
 注2. 宅地に傾斜のある場合は別途考慮する。
 注3. 上表のます深は設計上の参考値であるので、設置するます深は、協議し決定する。

※人孔接続の場合は、ゴム輪受口片受直管 (立上げ) 及自在曲管を削除する。また、可とう支管は可とう継手へ変更する。

舗装復旧図(1)

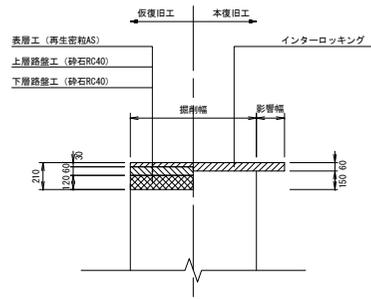


○印はプライムコート
×印はタックコート

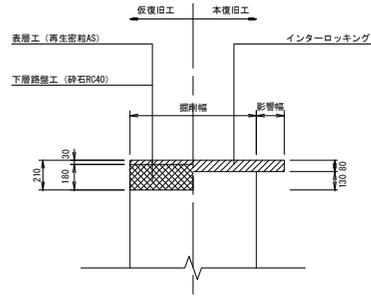
注) 復旧については、道路管理者と協議が必要である。

舗装復旧図 (2)

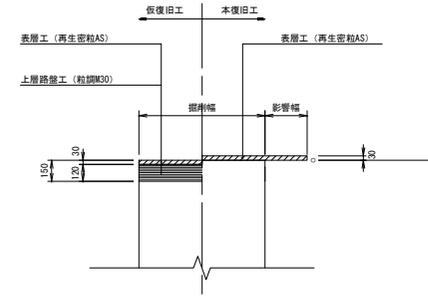
インターロッキング A



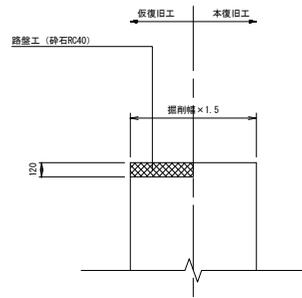
インターロッキング B



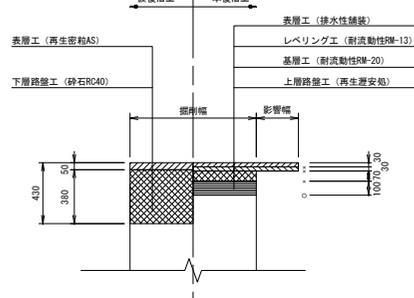
オーバーレイ



未舗装道路



排水性舗装



○印はプライムコート
×印はタックコート

注) 復旧については、道路管理者と協議が必要である。